

經濟論叢

第 157 卷 第 3 号

哀 辞

故 島恭彦名誉教授遺影および略歴

金融的ヒエラルキーと過剰金融……………本 山 美 彦 1

寡占市場における組合化の効果：

産業別 VS 企業別組合……………石 黒 真 吾 20

中小企業の存立・成長と研究開発……………蘇 顯 揚 33

芸術支援政策の財政問題（1）……………金 武 創 51

追 憶 文

島恭彦先生の業績を偲ぶ……………宮 本 憲 一 67

弔辞……………廣 田 司 朗 71

島ゼミナールの思い出……………横 田 茂 73

平成 8 年 3 月

京 都 大 學 經 濟 學 會

哀 辞

1995年9月28日 本学名誉教授島恭彦先生が逝去されました 享年85歳
先生は 1910年6月に福井県の敦賀で生を享けられ 大正デモクラシー期に膳所中学校から第八高等学校に進まれ 1930年代の昭和恐慌下 滝川事件当時に 京都帝国大学経済学部で 故山岡亮一教授や松井清教授らとともに 新しい経済学の創造に向けて研究を開始されております 1938年 歴史的名著『近世租税思想史』『東洋社会と西洋思想』(1941年)を御公刊になり 研究史上に確固とした基礎を確立されました その後 和歌山で高等専門学校の教授を勤められてから 京都大学人文科学研究所に赴任され さらに 第2次世界大戦後における経済学部の改革に当たり 財政学担当者として御着任 相前後して『中国奥地社会の技術と労働』『日本資本主義と国有鉄道』などの名著を次々と刊行されました 先生の財政学は 新憲法下の財政学というに相應しく 公債論研究や 租税思想史研究 さらに 地域研究や公益事業研究の総合的な成果の上に立って 財政民主主義と地方自治の視点に貫かれ 日本財政学会をはじめ 当該分野の第一人者として 内外から高い評価を受けて来られました その成果は『島恭彦著作集・全六巻』(有斐閣)として公刊され 日本学術会議会員への選出 日本財政学会理事・顧問 自治体の研究機関理事長・審議会委員就任など地方自治への御貢献ともども日本学術界において銘記されるであります

また 先生は 経済学部長・経済学研究科長・経済学会評議員長 さらには 京都大学評議員・大学院審議会委員をはじめ 多くの職務を通じて大学の発展に貢献され 経済学教育においても多くの学生・大学院生を育成されました 定年で御退官後は 専修大学大学院教授に就任される一方 雑誌『財政学研究』の創刊以来の編集者でありました

京都大学経済学会は 先生の生前における経済学研究と教育に対する御貢献に感謝するとともに ここに 御遺影を掲げて心から哀悼の意を表します

平成8年2月

京都大学経済学会